

あさひ燦々



理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します

○基本方針 ① 患者さんの権利を尊重して、患者さん中心の医療を実践します。 ② 多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます。 ③ 地域の中核病院として急性期医療・救急医療の充実に努めます。 ④ 慈愛の心に満ちた医療人を育成します。 ⑤ 一般医療を基盤とした勤労者医療を積極的に実践します。 ⑥ 働き甲斐のある職場づくりをし、健全な病院運営を行います。

当院の医療安全の取組

旭ろうさい病院

医療安全統括責任者 花林 昭裕

医療安全管理者 鹿内 加織

医療事故を未然に防ぐための医療安全対策は、病院において避けられない課題の一つといえます。今回は当院での医療安全の取組みの一例をご紹介します。

日本は高齢化が進み、当院の患者さんも高齢者が急激に増えております。高齢者にとって、転倒・転落は骨折や頭部外傷等の大けがにつながりやすく、それが原因で介護が必要な状態になることもあります。そのため、院内の安全な環境作りはとても大切な医療安全対策となっています。

当院では、転倒・転落による有害事象(特に骨折)を防止するため、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフが

中心になり個々の患者さん合わせた転倒防止対策を検討し、未然に転倒を防止し、万が一転倒しても怪我をしないような環境作りに取り組んでいます。定期的に行っている医療安全パトロールでは、

- ・患者さんの靴は、踵があるものか
 - ・転倒・転落しやすい患者さんのベッドの高さは一番低くなっているか
 - ・怪我を予防する衝撃緩和マットの位置はどうか
- などの点についてチェックして回っています。

今後も当院を利用される患者さんに安心・安全な医療が提供できるよう医療安全対策に取り組んでまいります。

地域包括医療病棟の導入



旭ろうさい病院
医事課長 藤本 学

今年4月に2年に一度の診療報酬改定が行われました。

診療報酬改定にはいくつかの大きな取組（目的）がありますが、今回はその中で「生活に配慮した医療の推進など地域包括ケアシステムの深化・推進のための取組」にスポットを当てて新

設された「地域包括医療病棟」（10月から当院で導入）について紹介します。

「地域包括医療病棟」とは、いったいどういったものなのか？診療報酬改定で新設された背景は以下のとおりです。（厚生労働省発表資料）

- ◎高齢者の人口増加に伴い、高齢者の救急患者が増加し、中でも軽症・中等症が増加している。
- ◎急性期病棟へ入院した高齢者の一部は、急性期の治療を受けている間に離床が進まず、ADLが低下し急性期から回復期に転院することになり、在宅復帰が遅くなるケースがあることが報告されている。
- ◎高齢者の入院患者においては、医療資源投入量の少ない傾向にある誤嚥性肺炎や尿路感染といった疾患が多い。（高度急性期を担う病院とは医療資源投入量がミスマッチとなる可能性）
- ◎誤嚥性肺炎患者に対し早期にリハビリテーションを実施することは、死亡率の低下とADLの改善につながることが示されている。
- ◎入院時、高齢患者の一定割合が低栄養リスク状態または低栄養である。また、高齢入院患者の栄養状態不良と生命予後不良は関連がみられる。

当院がこの「地域包括医療病棟」を導入しようとしたきっかけは、これまで当院を利用している患者さんの年齢層や、当院を取り巻く環境、地域における当院の立ち位置を考えたとき

に、当院がこの「地域包括医療病棟」を導入することで三次救急を担う医療機関の先生方、地域のクリニックの先生方や地域住民の方々に最もお役に立てるのではないかと、より安心して入院

していただけるのではないかと考えたのが始まりです。

当院は、この「地域包括医療病棟」を導入することで、超急性期のICU、急性期一般病棟、地域包括ケア病棟の4つの機能を有することとなり、あら

ゆる病状の患者さんにも対応できるようになります。

これからも幅広く、地域の先生方や地域住民の方々に「お役にたてる（求められる）病院」を目指してまいりますのでこれまで以上にどうぞよろしくお願い申し上げます。



診療トピックス



難聴と認知症



旭ろうさい病院

耳鼻咽喉科主任部長 小川高生

近年、多くの研究成果から難聴が認知症やうつ病の発生に深く関係していることが明らかとなり、高い生活の質を保つために聞こえが重要であることが注目されています。

難聴による不利益

難聴になると必要な音が聴こえず、さまざまな社会生活に支障をきたします。車の接近に気付かないなど危険を察知する能力の低下、家族や友人とのコミュニケーションがうまくいかない、自信がなくなる、社会的に孤立しうつ状態に陥ることがある、

認知症発症のリスクを大きくする、といった様々な不利益が報告されています。

難聴の原因

難聴の原因は、年齢以外に耳垢や中耳炎などのこともあり、これらは治療で改善できる可能性があります。聞こえがよくなる方法があるか、耳鼻咽喉科で診察してもらうことが大切です。

聞こえのセルフチェック

下記にひとつでも当てはまる方は、耳鼻咽喉科でご相談ください。

会話をしているときに聞き返す

ことがよくある。

- 集会や会議など数人での会話がうまく聞き取れない。
- 聞き間違いが多い。
- 話し声が大きいと言われる。
- 相手の言ったことを推測で判断することがある。
- うしろから呼びかけられると気付かないことがある。
- 車の接近にまったく気が付かないことがある。
- テレビやラジオの音量が大きいとよくと言われる。
- 電子レンジの音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。

難聴と補聴器

補聴器による認知症予防の効果や、生活の質の改善が多数報告されています。補聴器はメガネとは異なり、つければすぐに聞こえるようになるわけではありません。難聴のある方は、長年音が小さな環境で生活してきているため、本来聞こえるべき音が入ってきても、うるさいと感じることが大半です。そのため、一人ひとりの異なる聞こえに応じて適切な調整を行うことが重要です。補聴器をご検討される場合には、「補聴器相談医」に、是非一度ご相談ください。



教えてドクターQ&A

【質問 1】

骨粗鬆症とはどんな病気ですか？



【質問 1 回答】

骨粗鬆症は「静かに進行する骨の病気」です。

- 骨の量（骨量）が減少し、骨の内部構造が弱くなります。
- 結果として骨が脆くなり、骨折しやすくなります。
- 早期発見と適切な管理で予防・治療が可能です。



【質問 2】

骨折のリスクはどのくらい高くなるのでしょうか？



【質問 2 回答】

骨粗鬆症により骨折リスクは大幅に上昇しますが、予防は可能です。

- 健常者と比べて2～4倍の骨折リスクがあります。
- 主な骨折部位として脊椎（背骨）、大腿骨近位部（太ももの付け根）、橈骨遠位端（手首）が挙げられます。
- 適切な予防策で骨折リスクを大幅に減らせます。

【質問 3】

骨粗鬆症の治療法にはどのようなものがありますか？

【質問 3 回答】

薬物療法と非薬物療法を組み合わせた総合的なアプローチが効果的です。

1. 薬物療法

- 内服薬と注射薬があります。
- 個人の状態に合わせて適切な薬を選択します。

2. 非薬物療法

- 適切な運動
- バランスの取れた栄養摂取
- 転倒予防



医師と相談しながら、最適な治療法を選びましょう。

【質問 4】

日常生活で気をつけるべきことは何ですか？

【質問 4 回答】

転倒を防ぐ生活習慣、健康的な生活スタイルを目指す事が重要です。

1. 転倒予防：

- ・家の中の段差をなくす
- ・明るい照明を使用する
- ・必要に応じて杖や歩行器を使用する

2. 適切な運動：

- ・ウォーキングなどの軽い運動や筋力トレーニング

3. 栄養バランス：

- ・カルシウムやビタミン D の摂取を心がける
- ・バランスの取れた食事を心がける

4. 定期的な健康チェック：

- ・骨密度測定を定期的にする



【まとめ】

骨粗鬆症は早期発見と適切な管理で予防・治療が可能です。健康的な生活習慣と定期的な検診で、いつまでも活動的に過ごせる身体づくりを心がけましょう。骨を守ることは、健康で豊かな人生を送るための重要な一歩です。

整形外科医師 林 憲斗

新任医師・退任医師のご紹介

令和 6 年 10 月新任医師

原田 正晴	外科副部長
福山 貴大	外科医師
森島 陽	専攻医（消化器内科）

令和 6 年 9 月末退任医師

戸田 瑤子	外科副部長
松下 希美	外科副部長
羽柴 文貴	呼吸器内科医師

キッチンカー営業の取組について

旭ろうさい病院

総務課 郷司 英里

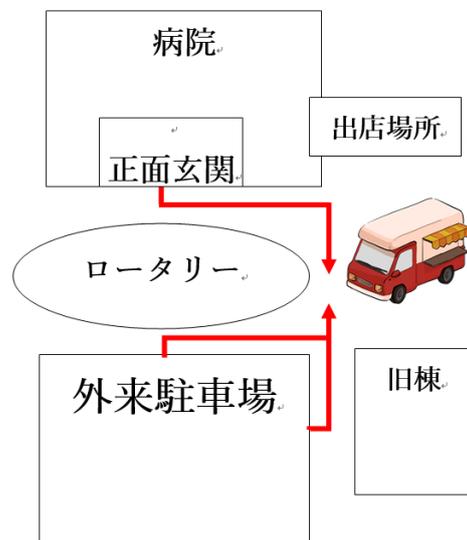
ご来院の方や職員の方などみなさんに食事を楽しんでいただくために、令和6年6月よりキッチンカーが来ることになりました。

10月からは毎週木曜日に週ごとに異なるキッチンカー1台が来る予定です。出店時間は概ね10:30~14:30、出店場所はロータリー北側の通路スペースになります。

旭ろうさい病院では以前は喫茶スペースがありましたが、増改築後には地下1階にあります売店営業のみとなっております。



令和6年6月営業の様子



近くに飲食できる場所が少ないこともあり、食事の選択肢を増やし、楽しんでいただきたいという思いからこの様な取組を始めました。

今回のキッチンカー営業の取組は年に1度行っております患者満足度調査の結果より検討を重ね、実施の運びとなりました。今後とも、患者満足度調査の結果、声の箱、退院時アンケート等の患者さんのご意見を検討し、改善できるよう努めて参ります。

【編集後記】

「物価高騰」

物価高騰が止まりません。2022年頃から食料品、日用品、燃料等々物価はどんどん上がり始め、今年の4月に約3000もの食品が値上げされましたが、この10月にも更に2000品目を超える食品の値上げが行われ、郵便料金も大幅に値上げされております。

値上げの主な要因は、燃料・資源や人件費の高騰が最も大きいとされています。更に最近では少し落ち着きを見せてはいますが、急激な円安もその要因の1つだと言われています。

物価高騰により各家庭への影響もかなりあると思いますが、病院の経営上も非常に大きな影響を受けています。電気、ガスなどの光熱水費は勿論、診療を行う上で不可欠な注射針やガーゼなどの医療材料、手術や処置に使用する医療機器などの価格も値上がりしています。

このように病院で使用する経費は上がっていますが、収入となる診療報酬は経費の上昇を補えるだけの引き上げは殆んどありません。

そうはいいまして当院を利用する患者さんや地域の方々へのサービスを極端に下げることなく、例えば、会計課の職員は少しでも安価で良い品物を調達するよう努力しておりますし、その他の職員も「便利だから」、「新しいから」などと言う理由だけでの物品購入は控えるなど支出削減に努めています。

今後も「地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供する」という当院の理念のもと、努力してまいります。

事務局長 中村 淳一

